

わが署と地域との関わりについて

岐阜森林管理署 森林ふれあい係

係長 二村 正博

1. はじめに

これまで国有林は時代の要請に応じ、戦後の復興期には木材の増産、高度成長期には自然保護を考慮した森林施業の推進等に努めてきたいわゆる木材生産機能重視の管理経営を行ってきました。

しかしながら、地球温暖化防止や生物多様性確保の観点から、地球的規模での森林に対する国民の関心が広がるとともに森林とのふれあいに対する期待の高まり等、これらに対する国民の要請が多様化してきていることから、これからの国有林は公益的機能重視の管理経営へ転換することとしています。

当署においては、平成10年3月に森林ふれあい係が新設されたことから、当係を中心に地域とのふれあいを大切にし国有林のPR活動や森林の有する公益的機能等の重要な役割について、地域住民の方々に知っていただくための活動等を行ってきましたので報告します。

2. 赤沼田天保林の活用

当署管内には、江戸末期の天保13年に植栽された、名古屋分局管内では最も古い人工造林地で、学術上貴重であることから「赤沼田天保ヒノキ植物群落保護林」として保護するとともに森林教室等のフィールドとしても活用し、広く地域住民の方々に森林の持つ良さを理解していただきたいと考えています。

(1) 森林教室の実施

毎年、赤沼田天保林を利用して「小坂町緑の少年団」である、小坂中学校1年生を対象に森林教室を実施しています。

天保林内の植物を中心に、名前当て・樹高当て・直径当てクイズをしながら林内を回り、川での水遊び・丸太切り等を通じて、森林の良さを肌で感じ取ってもらえるよう、実施しています。

昨年は、歩道周辺の植物等に番号札をつけ、植物の名前とその由来等をまとめた資料を作成し、この資料があれば誰でも天保林内の植生について説明・案内ができるようにしました。



スギに直接触れ、木の大きさを測定している様子

(2) 見学者の案内

昨年は、全林野主婦会主催の「山を見る会」、「県職員退職者協議会」、「天竜市森林組合」等の見学希望があり、その都度職員が随行し、天保林の由来・林分の説明等を行いました。

(3) 天保林の整備について

このように、今後も見学者・森林教室等での活用はもとより、もっと多くの方に天保林を知っていただくためにも歩道や看板等の整備が重要となります。

今年度は保護林保全緊急対策事業で自然景観等に配慮しながら、歩道、歩道橋等の整備等を進めています。

今後においては、小坂町をはじめ地元とタイアップしながら、施設の整備等を進めていく必要があると感じています。

3. 当署主催イベント

(1) 植樹祭

今年度の植樹祭は、七宗国有林の旧スケガ谷土場跡地に、ヒノキ・サクラ・ケヤキ・コブシ等を中心に植樹しました。

ここは、舗装された併用林道に面していることや、すぐ近くにキャンプ場があることから今後、ベンチ・あずま屋等を整備すれば、一般の方々にも活用していただけるのではないかと考えています。

(2) シティ・フォレスター

平成11年12月、七宗国有林でシティ・フォレスター隊員による間伐作業を実行しました。

七宗国有林には、20から25年生の間伐時期を迎えた林分が多く、また、比較的、岐阜・名古屋方面からも近いため、川下の住民が、山づくり体験に参加できることから継続的に実施していきたいと考えています。

将来的には、ボランティア自らが企画・実行できるような体制にするのが理想と考えます。



4. 森林教室

天保林を活用した森林教室の他に、今年度は、七宗町立神淵小学校5・6年生、小坂町立小坂小学校5年生を対象に実施しました。

小坂小学校では森林の保水能力の違いを模型により実験し、児童たちに直接、その違いを体感してもらうことができました。

また、小坂小学校の児童からは、森林教室の後にも直接署へ、山に関する質問が寄せられ、学校の収穫祭にも招待される等、森林教室のみに終わることなくその後のつながりが生まれ、森林教室を開催してよかったという実感がありました。

これからは、他町村の小学校に対しても要請を待つのではなく、こちらから積極的に働きかけて森林教室を開催し、未来を担う子供たちに森林の持つ役割や、重要性を感じとってもらいたいと考えています。



模型を使用した実験の様子

5. 地元へのPR活動

地元自治体のイベントへも、積極的に参加し、森林の持つ働き・森林の良さ等について普及していきたいと考えており今年度は、小坂町の「ふるさとフェスティバル」に参加し、竹とんぼ・巣箱・ミニラック・ミニイスづくりを通じ、親子で木の良さにふれあう体験ができたと思っています。



6. 広報活動

今、国有林ではどんなことをしているのか、市町村・官公庁・学校等に知っていただくために、「緑のふれあい通信」を季節ごとに発行しました。

作成にあたっては、季節の特徴がわかる写真を取り入れる等、一般の方にも分かり易い紙面づくりに心掛けています。

内容等十分とはいえませんが、発行を続けることに意義を感じ、今後も努力していきたいと考えています。

7. まとめ

ここまで、地域との関わりについて述べてきましたが、内容については、それぞれ今後に向けて検討課題が残りました。

森林管理署の名前すらまだまだ浸透していない地域もある中で、これら地域での活動は森林の重要性・森林管理署の役割等を知っていただく上で、重要な位置を占めていると思います。

今後、これらの活動を積極的に進めてゆきたいと思います。